

# 絵絹に描く美人画

きぬ絵(絹本着色日本画)の技法



佃 喜翔

# きぬ絵について

きぬ絵は、日本画の美術展の図版などでは、紙に制作する紙本着色(しほんちゃくしょく)に対して、絹本着色(けんぽんちゃくしょく)または絹本着彩(けんぽんちゃくさい)等と表記されます。昭和初期までは日本画の代表的な技法で、古い掛け軸で見かける仏画、動植物画、風景画、美人画の多くはこの技法で描かれています。発色がよく、一見薄塗りに見える画面に深い奥行きがあり、とても味わい深い技法ですが、美術展出品用の大作向きでない、修正がしにくく手間がかかる等の理由で、今では仏画を除いてあまり描かれていないようです。

私は高校在学中に日本画の基礎を学んで以来、上村松園や鏑木清方の美人画、伊藤若冲の動植物画に強い憧れを持っていました。しかし日本画の技法書にも、絹は扱いが難しいと簡単に紹介されていることが多く、学ぶ機会がないまま紙(雲肌麻紙)に制作していました。偶然美人画カレンダーの原画制作の依頼を受けたのは1996年末のことです。ぜひ絹に描いて欲しいとの注文で、これを機に本格的に絹に取り組み、試行錯誤を繰り返しながらも1997年中には、カレンダー原画用の美人画を6点描きあげることができました。けして上出来とは言えませんが、少し「こつ」をつかめば絹に描くのはそれほど難しいことではなく、紙では出来ない表現が可能であることが分かってきました。以来、子供の頃から憧れていた、懐かしい少女雑誌の口絵のような世界を絵絹(えぎぬ)に表現しています。

2000年より、この楽しい技法をたくさんの方に知ってもらいたいと「喜翔きぬ絵教室」を始めました。同好会と言ったほうがよい、区民センターの会議室を借りての小さな講座です。絹本着色では堅苦しいので「きぬ絵」と呼んで、初心者から絵の経験のある方まで、それぞれの描きたいものをそれぞれのペースで、一緒に考えながら描いています。

この本は、「先生の制作過程を写真で見せてほしい」という教室の生徒さん達の要望に答えてまとめたものです。月2回の教室では、個別の指導に時間をとられて制作過程を充分見てもらうことができないのです。学び始めてたった10年で得た私の知識はささやかなものですが、もっと上達してから・・・と言ってはいられないあせりを、今感じています。仏画以外では需要がないとの理由で、画材店で扱う絹の種類がずいぶん少なくなってきました。こんなに楽しい豊かな技法が忘れ去られるのは、とてももったいないと思うのです。

この本が、過去の私と同様に、絹に描く日本画を学びたいという希望を持ちながら果たせないでいる多くの若い人達の「きっかけ」となることを願っています。一番喜翔らしい美人画の描き方を紹介するため、今回は絵を描いた事のある中習者向けの内容となりました。漫画やイラストが好きで自分で下図が作れる方は、ぜひトライしてください。日本画らしい絵を描く必要はありません。キャンバスやイラストボードの代わりに絵絹を使ってみてください。表現の幅が広がります。日本画らしさに憧れる方は、巻末に掲載した私の作品や、好きな画家の作品の模写(著作権に注意)を、ぜひやってみてください。少なからず失敗を重ねるうちに「こつ」がつかめたらしめたものです。初心者の方は、身近な日本画の教室(ほとんど紙本着色です)で絵の具の溶き方、スケッチの仕方などの基本を少し学んでから、絹にトライされると良いでしょう。美人画以外の人物画、風景画、動植物画、静物画、どれも絹に向いています。俳画、水墨画も紙本とは違った表現が可能です。

きぬ絵を楽しむ方が増えることを心から願っています。

# INDEX

## 用具と材料

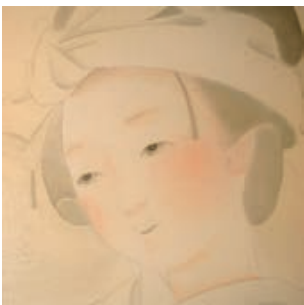
・・・ P 3～4

## 基礎技法

- 膠(にかわ)を溶く・・・・・・・・・・・・・・・・ P 5
- 礬水(どうさ)を作る・・・・・・・・・・・・ P 5
- 胡粉(ごふん)を溶く・・・・・・・・・・・・ P 6
- 水干(すいひ)絵の具を溶く・・・・・・・・ P 7
- 岩絵の具を溶く・・・・・・・・・・・・ P 7
- 金泥、銀泥、パールを溶く・・・・・・・・ P 8

## 制作工程

1. 木枠とのりの準備・・・・・・・・ P 9  
値段が安いので、洋画のキャンバス用の木枠を使用します。日本画材店には専用の木枠もあります。
2. 絵絹を張る・・・・・・・・ P 10  
絵絹という、絵画専用のややかための絹を市松のりをかために溶いたもので張り、乾かした後防水のために布ガムテープを周囲に貼ります。
3. 湯引き・・・・・・・・ P 11  
絹についたのりなどを落とすために熱いお湯ではけを使ってふきとります。
4. どうさ引き・・・・・・・・ P 11  
にじみ止めのため膠(にかわ)を薄めて明礬(みょうばん)を加えた液(礬水/どうさ)を塗ります。
5. 下図を描く・・・・・・・・ P 12  
スケッチをもとに、無駄な線を省いたり絵絹のサイズにあわせて縮小拡大したりして、下図を描きます。必要などころには墨の調子や色をつけておきます。
6. 下図を写す(骨描き)・・・・・・・・ P 13  
木枠と同じくらいの厚みの本の上に下図をおき、その上に絵絹を置いて薄墨で線を入れていきます。
7. 墨で調子をつける・・・・・・・・ P 13～14  
濃い色の部分に、中墨で調子をつけます。

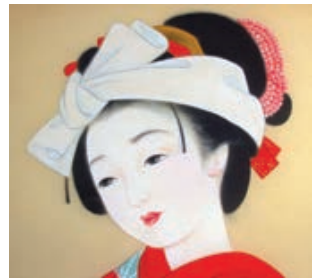
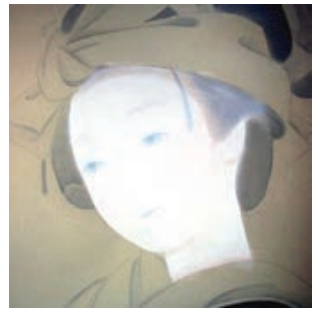


8. 色でぼかしを入れる . . . . . P 1 5  
バックやほっぺたの赤みなどをぼかし塗りで彩色  
します。
9. 地塗り . . . . . P 1 6  
薄い黄土色などで全体を塗ります。
10. 模様を描く(麻の葉) . . . . . P 1 7  
着物の柄に使う麻の葉模様の練習をします。
11. 下図に模様を描く . . . . . P 1 8  
下図に着物や帯の柄を描き込みます。
12. バックの処理/金を入れる . . . . . P 1 9  
「奥の物から先に描く」が基本です。細かい部分は  
後からでかまいません。
13. 顔と髪を描く . . . . . P 1 9 ~ 2 3  
人物では、重要な顔の部分を先に描いておきます。  
他の部分を完璧に描いた後、顔で失敗したら取り返  
しが付きません。
14. バックを描く . . . . . P 2 3 ~ 2 4  
バックの図柄を描きます。
15. 着物と帯の地色を塗る . . . . . P 2 4 ~ 2 6  
水干絵の具や岩絵の具で色をつけていきます。下塗り  
上塗りで違う色を重ねたり、同じ色を2度塗ったり、  
裏から強い色を塗ったりします。
16. 着物、帯の柄を描く . . . . . P 2 7 ~ 2 9  
地色の上から、柄を描きます。
17. 細部の仕上げ . . . . . P 2 9  
細かい部分を仕上げます。
18. 輪郭線を描く . . . . . P 3 0 ~ 3 1  
それぞれの部分の色をまぜた薄墨で輪郭線を描きま  
す。
19. 裏打ち . . . . . P 3 3  
表装店で裏打ちをしてもらいます。
20. 落款 . . . . . P 3 3  
落款を入れ額装します。(軸装もできます。)
21. 額装 . . . . . P 3 3 ~ 3 4  
軸装もできます。

**作品介绍** . . . . . P 3 5 ~ 4 4

**画材店資料** . . . . . P 4 5

**作者プロフィール** . . . . . P 4 6



# 用具と材料



■**木枠** 絵絹を張る枠。値段が安いのでキャンバス用の木枠を使用します。洋画材店、額縁店などで購入できます。F〇号、P〇号、M〇号といったサイズがあり、組み立てて使います(写真はF15号を組み立てたものです。)

■**絵絹** 絵を描くための絹地です。着物地と違い練っていないため堅く張りがあります。日本画材店で購入します。各種の中があり23m巻きになったものを切り売りしてくれるので、長さを指定して購入します。

■**電熱器** 日本画材店にもありますが、ホームセンターなどで、強弱切り替えのできる電熱コンロを購入すると良いでしょう。キッチン用のステンレスネットなどを使って高さを変えて温度を調整します。



■**膠なべ** 日本画材店に専用のものがありますが100円ショップ等の一人用土鍋で充分です。

## ■**膠(にかわ)用コップと木製スプーン**

使い古しの小ぶりのマグカップなど。金属のスプーンは熱くなりすぎてコップの底に傷をつけるので木(または竹製)のスプーンを使用します。



■**すずり、墨** すずりは小学校時代に使ったものでもかまいません。墨は茶墨、青墨の2種類を用意します。初めのうちは2000円~5000円くらいのものでよいでしょう。

■**刷毛、筆** 大きめの刷毛3本(水用、どうさ用、色用)、ぼかし用の空刷毛(からばけ)小、隈取筆中・小各1本、3連筆小または平筆中、彩色筆小(または則妙)、面相筆(大・中/松葉、小/金泥書※他の銘柄でも可)、のり刷毛(安価なもので可)が必要です。1000円前後のものでかまいません。連筆と空刷毛は少し高価ですが、あると便利です。



■**乳鉢と乳棒** 胡粉や絵の具をすって細かくするための道具です。乳鉢は大小2個あると胡粉用、色絵の具用に分けられて便利です。

■**水差し** しょうゆさしやプラスチック容器でかまいませんが、そそぎ口が小さくお湯を入れられる物を選びます。



■**筆洗** 筆を洗う容器。2つ仕切りの物の他にコップやプラスチック容器を用意して、初回に洗う水2回目に洗う水、きれいな水の3つに分けるようにします。

■**絵の具皿** 丸皿、梅皿、菊皿がそれぞれ大中小のサイズであります。通常の白い食器で、底が平たくやや深めの小鉢などもあれば便利です。

続きは  
完成版で  
お楽しみ下さい。